

若い世代（39歳以下）のうち、現役・就労世代（学校教育終了後）の市民参加の現状、課題、方策

～単身者、家族形成者（夫婦、夫婦と子ども（小学校入学前、小学生、中学生、高校生、専門学校・大学生、学校教育終了者））～

資料5-3  
令和3年（2021年）12月22日（水）  
第5回市民参加推進審議会

【参加予備群の市民】

	現状	課題	方策
第2回 審議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加のきっかけがわからない</li> <li>○参加の機会が見つからない</li> <li>○参加するための情報が届いていない (具体的なイメージが描けない)</li> <li>○家事・育児・仕事のため時間的な余裕がない (興味があることには時間を裂けるか)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域活動などを含めた参加情報が届いていない、情報にたどり着けてない (情報発信の方法に問題点があるのか?)</li> <li>○参加へのハードルがある (時間的、地理的制約により参加者が限定されているか?参加した際の意見が反映されたのかが見えないことが問題なのか?)</li> <li>○参加による負担感がある</li> <li>○参加方法、具体的な参加内容が伝わっていない (参加機会の情報、具体的な関わり方、参加目的や意義が伝わっていないのか?)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加しやすいきっかけづくり</li> <li>○「広報はちおうじ」に二次元コードを付け参加情報にたどりやすくする</li> <li>○SNSの登録者数を増やす</li> <li>○参加方法に対面以外のオンラインを活用する</li> <li>○参加したことの満足感をつくる(市政への意見の反映状況の可視化)</li> <li>○参加へのハードルを下げる</li> <li>○参加しやすい方法を導入する</li> <li>○個別、地域、団体、SNSなどを通じた積極的なアプローチ並びにインセンティブの付与</li> </ul>
第3回 新議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加予備群の市民の中にも様々な状況があるのではないか (家庭、仕事、経済的状況など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に参加する人は少ない (少しのきっかけ、参加の仕組み、背中を押す、一人では参加しづらいなど、参加への障壁は何か。クリアすべきことは何か?)</li> <li>○自分が興味があること、やりたいことは、参加するための第一の動機か? (参加の意欲があっても、情報が伝わっていないことはもったいない。同じ悩みがある市民にとって解決のヒントとなる事例情報があると参加が無駄ではないと思えるか?)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加してもらおう目的をわかりやすくアナウンスする</li> <li>○参加する期間が短期であり、明確する</li> <li>○テーマを身近でわかりやすくする</li> <li>○参加した市民の活動状況を可視化して、参加したときのイメージをわかりやすくし発信し参加へのハードルを下げる</li> <li>○参加の仕組みをオープンにし、様々な場面ごとに情報を発信し、わかりやすい情報発信をし続ける</li> </ul>
第4回 審議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若いデジタルネイティブ世代は、第6期審議会答申にもある総務省出典の「世代ごとの主なコミュニケーション手段」では、SNSの利用時間が他のツールよりも圧倒的に多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○八王子市にはSNS発信方法にInstagramがない</li> <li>○若者は情報収集の第一段階では逐一文章を読まない</li> <li>○市のLINEは情報量が多い</li> <li>○LINE登録者が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報を収集できるSNSの充実</li> <li>○SNSでの発信は「タイトル」「写真」で興味を湧かせる</li> <li>○せっかく登録してくれた市民が情報をブロックしない工夫</li> <li>○LINEのセグメント機能の周知や発信の工夫</li> <li>○LINE登録者へゲーム、スタンプなどの付加機能をつける工夫</li> <li>○小学校から大学まで学校数が多いことを利点と考え、学校の活動状況や大会結果などをオフィシャルとして取り上げ、友人、親、祖父母が登録するきっかけとする</li> <li>○例えば、「学生コミュニティ」というようなコミュニティ広場、情報共有広場があることで、市政や市民参加へのハードルが下がる</li> <li>○SNSは新たな関係性を生み出し、そのコミュニティを通して市民同士がつながるサードプレイスとなり、その先に市民参加が見えてくる可能性がある。</li> </ul>